

| | | |
|-------------|-------------|--------------------------|
| 2023年10月24日 | 千教組闘争速報10号① | 2024年度教育予算等に関する 県教委交渉 |
|-------------|-------------|--------------------------|

各支部長 様
各専門部長 様

千葉県教職員組合 中央執行委員長 渡邊 郁哉

2024年度教育予算等に関する県教委交渉

「特別支援学級の学級編制基準の引き下げや多学年指導の解消」
「増置教員の配置基準の改善」 「専科指導充実のための配置拡充」
「SC や SSW の配置時間・校数の拡充」 その他教育予算拡充等について
学校現場の声をもとに、改善を訴える！！

連日のとりくみに敬意を表します。

10月23日、千教組は、県教育委員会と「2024年度教育予算等に関する交渉」を行いました。

千教組からは各支部、各専門部から16人の参加と本部中執2人の18人、県教委からは10人の参加がありました。

今回の交渉では、山武支部・夷隅支部・市原市支部の参加者から、学校の実態を訴え、改善を求めました。

＜県教委からの主な回答＞

- 増置教員については国の基準によって配置された定数を、千葉県公立小中義務教育学校定員配置基準に基づいて学級数に応じて配置しているところである。定員配置基準については毎年定数の見込み等を見て、また、様々な意見を踏まえて、検討している。次年度の定員配置基準の設定の際には意見を参考に検討していく。
- 昨年度から「小学校専科非常勤講師等配置事業」を新たに実施することとし、9月1日時点で124校に150人を配置したところである。今後も、県の予算による非常勤講師の配置を進めるとともに、教職員定数の改善について、全国都道府県教育長協議会等を通して国に要望していく。
- 特別支援教育の充実、教師の専門性の向上、人材確保、人材育成が重要であると考えている。こうしたことを受けて、特に令和4年度から人事異動方針等において教職経験10年目までの適任者の登用を積極的に進め、特別支援学級担任の経験者を増やすことによって人材育成を図っている。専任での配置も含めて意見を参考にできることを考えていきたい。
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの個別の家庭訪問について、チーム学校の一員として単独ではなく、教職員や訪問相談担当教員と協働することで効果を発揮できると考えているが、今後、学校のニーズを把握したうえで相談体制の充実にもむけ、個別での訪問についても検討していく。
- ネットワークや端末の保守管理、通信環境整備及びこれに伴う通信費の増加や耐用年数を踏まえた1人1台端末の更新及び処分に要する費用について、必要な財政措置を講じるよう国に対し、要望しているところである。

最後に、古川書記長が「私たちは千葉県の教育を良くするためにとりくみを続けている。千葉県の教育がより良くなることで、近隣に良い広がりをもたらす全体が良くなると思っている。私たちが県で実施してほしいことは、県独自で人を増やすこと、環境を充実させることである。限られた予算ならば、現場が必要としない事業に関して、英断をもって整理し、必要なところに予算をかけることではないか。また、国・市町村の行動が追いついていないのであれば、どうしたら、国・市町村が動くのか、今までと同じではない、工夫された働きかけをしていただくことが必要である。

私たちが私たちにできることをしていく。私たちは『教育を県民課題に』という考えのもと、県内の教育関係団体とともに子ども支援連絡会を結成し、各級議会での意見書採択、知事・教育長宛の教育予算拡充を求める署名活動をしている。学校関係者以外にも、PTA、その他の産別も活動に参加している。今年度も直接、知事・教育長に署名を提出し、要望を伝えていく。」と力強く述べ、交渉を終えました。

今後も、教育予算の拡充に向け、引き続き県教委との折衝・交渉にとりくんでいきます。ご支援、ご協力をお願いいたします。交渉内容の詳細は後日発行の速報②を参照してください。